



今日のプログラムは、フランスの作曲家の作品をたくさん集めました。
 おしゃれな国フランスのすてきな音楽を楽しんでください。

ながいたまも
 永井玉藻
 (白百合女子大学ほか非常勤講師)

▶ ベルリオーズ

序曲『ローマの謝肉祭』Op.9

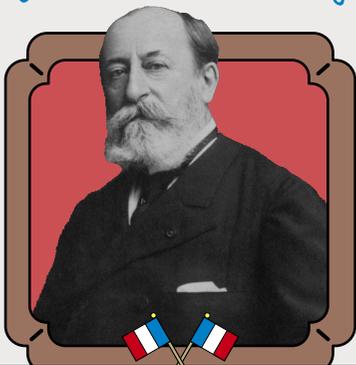
フランスの作曲家、ベルリオーズの代表曲です。
 もとはオペラのために作った曲の中から、作曲家
 が旋律を選んで、オーケストラの作品へと作り替え
 ました。謝肉祭のために人々が集まってくる賑わ
 いが描かれています。

Hector Berlioz



エクトル・ベルリオーズ
 (1803-1869)

Camille Saint-Saëns



カミーユ・サン＝サーンス
 (1835-1921)

▶ サン＝サーンス

組曲『動物の謝肉祭』より 第13曲「白鳥」

さまざまな動物（人間や化石も!）が、音楽で
 描かれる組曲『動物の謝肉祭』。「白鳥」では、
 水面がキラキラと光りながら揺れる様子をハー
 が、優雅に泳ぐ白鳥の姿をチェロの穏やかな旋
 律が表しています。

David Popper



ハンガリー出身の
チェリストでもある
作曲家！

デーヴィット・ポッパー
(1843-1913)

▶ ポッパー

妖精の踊り Op.39

あちらこちらへと飛び回る妖精。そのすばしっこい動きと軽やかさが、チェロの高い音域と、目にも留まらぬ早技の演奏で表現されます。作曲家のポッパーは、チェロ奏者としても活躍した人でした。

▶ ビゼー

『アルルの女』第2組曲より
第3曲 メヌエット、第4曲 ファランドール

南フランスを舞台にした、主人公フレデリの悲しい恋愛を描いた劇のための音楽です。「メヌエット」は、フルートとハーブが演奏するゆったりした旋律が、特に親しまれています。「ファランドール」は、南フランスのプロヴァンス地方に伝わる踊りの名前です。民謡「3人の王の行列」による堂々とした出だしの部分から、軽快で賑やかな踊りの音楽へと続きます。

Georges Bizet



ジョルジュ・ビゼー
(1838-1875)

Maurice Ravel



モーリス・ラヴェル
(1875-1937)

▶ ラヴェル

ポレロ

小太鼓のリズムに乗って、同じ旋律を様々な楽器が
変わるがわる演奏していきます。どんな楽器が演奏しているか、注目してみましょう。曲は静かな始まりからだんだん音が大きくなっていき、最後は力強く終わります。